

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホーム ゆう愛
訪問調査日	平成20年11月25日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホーム ゆう愛
所在地	238-0014 横須賀市三春町1-9-34 (電話)046-826-0232

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年11月25日
評価確定日	平成20年12月27日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・ <b>平</b> 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	30 人
利用定員数計	18 人
常勤 5人, 非常勤 25人, 常勤換算 12 人	

### (2)建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有( 円)	<b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> ( 450,000 円)	有りの場合 償却の有無	<b>有</b> /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1430 円			

### (4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	65歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	里吉内科クリニック、いまざわ皮膚科、古屋歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは横須賀市の中央東部にあり、京浜急行県立大学駅から徒歩で12~3分位のところにある。近くを国道16号線が通るが、道2本程度奥に入っているため交通量も少ない落ち着いた市街地である。建物は2階建てで1F、2Fの2ユニットがある。経営は元特養の理事をされていた方の個人経営である。玄関の入り口、リビングへの入り口はガラス張りで開放感がある。入居者の、このホームへの入居理由が、交通の便が良い、道の起伏が無い、静かでしかも便利な所とのことでもあった。勿論、家庭的雰囲気为前提であることは言うまでもない。各個室には洗面台が付いていて手洗いにはお湯が使えるようになっている。屋上は広く、干し物をする他、机を出しての食事や花火などを楽しめている。医療連携体制があり、近くの里吉クリニックへの通院介助、利用者、ご家族が望まれ、医学的処置が不要であれば看取りも考えているので安心である。受診者(5名程度)の要望でメンタルクリニックの月1回の受診も行っている。介護計画はソフト「包括的自立支援プログラム」を基礎データとして作成し、これに肉付けする形で作成している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>管理者の交代に伴い、ホームの体制の見直しを。職員の待遇見直しを実施し、ホームの1F、2Fの交流を前提として、相互の職員の交換研修を行い、互いの良い点を取り入れると共に、ホーム全体として統一されたケアを目指した。職員のレベル差についてはOJTや外部研修を併用し、更にはケアマネジャーや看護師の知識を活用した内部研修を重点的に実施し、統一されたケアと職員のレベルアップによるホームの体制の確立が実現出来た。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>前述の如く管理者の交代があったので、新管理者はホームの統一の考え方に基づいて自己評価の作成については1F、2Fの責任者が職員の意見を吸い上げた形で作成し、出来上がった自己評価をカンファレンスで説明し、意見を出してもらい、それを加味して最終版を纏めた。改善が必要な点は率先して改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>横須賀市では年6回の運営推進会議のうち今年度より年2回の地域会議、年4回は事業所会議の形で行われている。(今年度は既に3回の事業所会議を実施している。)メンバーは横須賀市から紹介を受けた民生委員を中心に地域代表、ご家族、事務局で実施している。議題の中から家族会開催の提案があり、アンケートを取ったところ堅苦しいものは避けて、イベントに併せた緩やかな形での実施希望が多かったため、その方向で家族会を検討している。運営推進会議も昼食を利用者と一緒にご飯をいただき、見学してもらってソフトな形で実施しており、フランクで建設的な会となっている。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>縁の遠い方、遠方にお住まいの方を除いて、ご家族は概して良く訪問してくれており、訪問の際には日頃の生活状況を健康状態報告と併せて充分お話するようにしている。また日頃の生活状況については「お知らせ」として、写真やエピソードを添えてお送りしている。前述のように家族会を計画中である。コンスタントな食生活により太りの方が多いのでお米を少し減らしてカットしたしらたきを混ぜたご飯を提供するなど健康に対する工夫にも努力している。</p>
重点項目③	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>地域との関係では盆踊り、夏祭りに参加し、お神輿はホーム前をコースにしてくれている。ボランティアではイベント時に来て頂くもの他、週1回傾聴の方が来てくれている。小学校の生徒さんが毎年ハンドベルの演奏に来てくれている。中学校の体験学習では1年生の見学及び3年生の2回の実習を受け入れている。ゆう愛として町内会に加盟し、町内会総会に出席し、町内との関係作りにも努めている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に応じて、できる限り、自立した生活ができるよう支援している。また、自己決定を大切に、スタッフも含め、地域の中でともに生活していけるよう努めている。	○	日々の生活に理念が反映されるよう、スタッフの意識を高めて行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、その人らしさやご自分のペース、好みなどを意思表示していただくように、衣服の選択・飲み物の選択・入浴するかしないかなど、ご本人の希望を優先するように取り組んでいる。		入居者の方々の自己決定を大切に、各個人に合った支援が行えるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り、夏まつりへの参加、また近隣の小学校の生徒さんが毎年ハンドベルの演奏に来てくれている。中学校の体験学習では1年生の見学及び3年生の2回の実習を受け入れている。		今後も、ボランティアや行事等の依頼や、受け入れを積極的に行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	出来上がった自己評価をカンファレンスで説明し、意見を出してもらい、それを加味して最終版を纏めた。評価後ミーティングを行い、各職員の意識を高められるよう、改善に取り組んでいる。指摘事項については、早急に改善への取り組みを行うことにしている。		今後も継続して取り組んで行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昼食を利用者と一緒に食事をし、見学してもらってソフトな形で実施しており、フランクで建設的な会となっている。御家族や地域の方々からのご意見を可能な限り反映できるように、取り組みを行っている。	○	今後も、サービスの向上につながるような、話し合いができるように取り組んでいく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外は電話等の連絡であるが、よりよいサービスが提供できるように、相談の機会が増えるよう取り組んでいく。		今後も継続して取り組んで行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活状況を書面にてお知らせし、金銭についても個々に合わせて報告している。また、健康状態等の近況報告は、面会時や電話にて随時対応している。		今後も継続して取り組んで行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を設置し、外部への申し立てについては、連絡先を重要事項説明書に明記し、説明を行っている。家族会開催の提案が運営推進会議であり、アンケートを取ったところ堅苦しいものは避けて、イベントに併せた緩やかな形での実施希望が多かったため、その方向で家族会を検討している。	○	今後も継続して取り組んで行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は、御利用者への影響に配慮し、最小限の異動としている。職員間での関係を良好に保てるよう努めている。		今後も継続して取り組んで行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は可能な限り参加し、内部研修の場も設けるよう努め、またミーティング時に指導することや、日々の業務のなかで指導ができるよう取り組んでいる。		今後も継続して取り組んで行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、交流研修に参加したり、運営推進会議を通じて他のグループホームと情報交換するなど、サービス向上に努めている。		今後も継続して取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族・ご本人の様子をふまえ、面会等の必要性など、随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせるための環境の構築に努めている。事前の見学等の対応をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、家事などを手伝っていただくことで、料理、手芸等を教えていただくような関係を築けるように努力している。利用者の方が、主導となるよう支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、職員間にて連携を図り、利用者の意向をとりいれたサービスが提供できるよう取り組んでいる。本人の意向にそった、外出などの個別ケアの実施も出来る限る対応するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで、できる限りご本人・御家族の意向にそったサービスが提供できるよう、介護計画を作成している。	○	個人ケアの確立。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じて臨機応変に対応できるよう、随時見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設備や環境を整え、状況に応じて支援できるように取り組んでいる。また、外泊等安全に行えるよう相談に努めている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医療機関をご利用の方については、職員が通院付き添いを行い(近所である)、御家族、ご本人希望の医療機関をご利用する方についてはご家族に対応してもらい、情報提供を行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、御家族、医療機関との情報を共有し、統一したサービスの提供を行っている。また今後の方向性について、相談している。		緊急時における迅速な対応に努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに注意し、言葉かけや対応にも個々に配慮している。		今後も継続して意識を高めていく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表せる方は、その方のペースに合わせているが、希望を表せない方は状況等で判断し希望や意向が把握できるように支援していく。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、切る・炒める・煮る・盛り付けなどを手伝っていただいている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔を保持しながら、希望に合わせた入浴を行っている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや散歩、趣味に合わせたレクリエーションの工夫を行っている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天時以外は希望に応じて、近隣の公園やホーム周辺への散歩を行っている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない状況を除き、基本的には、常時居室や玄関の鍵はかけていない。非常口については施錠を行っている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、防災訓練を実施している。	○	地域の人々の協力が得られるように、関係を築いていけるように取り組んでいく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や必要に応じて水分量のチェックをい、体調管理を行っている。また、嗜好にあわせて食事の提供を行い、摂取量の安定を図っている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にし、季節に応じた飾りつけなどを職員と一緒に作成している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく以前の状況を再現できるよう、馴染みのあるものや、使い慣れたものなどを持ってきていただくように説明している。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆう愛
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市三春町1-9-34
記入者名 (管理者)	鈴木 敦
記入日	平成 20 年 11 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に応じて、できる限り、自立した生活ができるよう支援します。また、自己決定を大切にし、スタッフも含め、地域の中でともに生活していけるよう努めていきます。	○	日々の生活に理念が反映されるよう、スタッフの意識を高めていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、その人らしさやご自分のペース、好みなどを意思表示していただくように、衣服の選択・飲み物の選択・入浴するかしないかなど、ご本人の希望を優先するように取り組んでいる。	○	入居者の方々の自己決定を大切に、各個人に合った支援が行えるよう取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族へは、毎月お手紙をお出ししている。地域へは、行事への参加や散歩時のあいさつなどにより、交流を図り、理解していただくように取り組んでいる。	○	地域行事への参加の機会、また散歩や買い物などの際の日常的な挨拶を大切に、地域交流を深めていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶などにより交流を図り、行事時には、改めて挨拶している。	○	今後も、気軽に立ち寄って頂けるような、明るく開放的な雰囲気づくっていきけるよう努めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り、夏まつりへの参加、また近隣の小学校や中学校のボランティアや体験学習等の依頼や受け入れを行っている。	○	今後も、ボランティアや行事等の依頼や、受け入れを積極的に行っていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者について、特に取り組みは行っていないが、窓口での相談に応じている。	○	運営推進会議を通じて、可能な限り地域で協力できるよう取り組んでいく。
---	--	---	---	------------------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後ミーティングを行い、各職員の意識を高められるよう、改善に取り組んでいる。	○	指摘事項については、早急に改善への取り組みを行う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や地域の方々からのご意見を可能な限り反映できるように、取り組んでいる。	○	今後も、サービスの向上につながるような、話し合いができるよう取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で行き来する機会を設けていない。	○	よりよいサービスが提供できるように、相談の機会が増えるよう取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、また計画作成担当者と必要な方の御家族とは、話し合いを行っている。	○	外部研修等、各職員に学ぶ機会を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの通知などをもとに、職員の意識を高め注意を払い、防止に努めている。	○	今後も常に意識して業務にあたるよう各職員にはたらきかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明するとともに、随時質問などに応じている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、不満や苦情をお聞きすることはあるが、外部者へ表せる機会には設けていない。	○	苦情等が上がった場合には、早急に問題解決にむけて取り組めるよう対応していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活状況を書面にてお知らせし、金銭についても個々に合わせて報告している。また、健康状態等の近況報告は、面会時や電話にて随時対応している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を設置し、外部への申し立てについては、連絡先を重要事項説明書に明記し、説明を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のフロアーミーティング、また日常的に話しやすい雰囲気を作り、いつでも意見を聞けるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度ミーティングを行い、調整に努めている。また緊急時は、管理者、フロアー責任者への連絡を徹底している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は、御利用者への影響に配慮し、最小限の異動としている。	○	職員間での関係を良好に保てるよう働きかけていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り参加し、またミーティング時に指導することや、日々の業務のなかで指導できるよう取り組んでいる。	○	外部研修は可能な限り参加し、また内部研修の場を設けるよう、取り組んでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、交流研修に参加したり、運営推進会議を通じて他のグループホームと情報交換するなど、サービス向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気軽に話せる雰囲気を作り、一人ひとりと話をする場を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の長所をうまく引き出せるよう働きかけている。また年1回の契約更新時に、人事考課を行っている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居事前面接を自宅にて行い、入居後のサービスに早急に対応できるよう取り組みを行っている。	○	各職員が柔軟な対応ができるよう務めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族、ご本人の都合などに配慮し、相談などに対して、いつでも柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、本人がかかえている課題を把握し、柔軟に対応できるよう対応している。	○	ホームでの支援のあり方をご理解していただけるよう務めていく。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族・ご本人の様子をふまえ、面会等の必要性など、随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせるための環境の構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、家事などを手伝っていただくことで、料理、手芸等を教えていただくような関係を築けるように努力している。	○	御利用者の方が、主導となるよう働きかけをおこなっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、行事に参加していただいたり、協力しながら、支援する関係を築けるように取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれのご家族の事情にあわせて支援を行っている。	○	各御家族の諸事情もあるが、行事等で、ご本人との接点の機会を増やしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談しながら、知人の方の面会や手紙などの受け取りを代行している。	○	馴染みのある場所について、散歩以外の個別外出ができるように取り組んでいく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席の配置に配慮したり、利用者同士がスムーズに会話できるような生活の自然な流れの中で、職員が介入するように努めている。	○	共同生活を営むうえで、個々の役割の確立に努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後についても随時、相談に応じるよう務めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、職員間にて連携を図り、御利用者の意向をとりいれたサービスが提供できるよう取り組んでいる。	○	本人の意向にそった、外出などの個別ケアの実施。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族のお話を聞き、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌に、1日の流れを個別に表記し、ミーティングなどにより、現状把握を職員全員が共有できるように努めている。	○	継続的なケアカンファレンスの実施。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで、できる限りご本人・御家族の意向にそったサービスが提供できるよう、介護計画を作成している。	○	個人ケアの確立。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じて臨機応変に対応できるよう、随時見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、気づきなどは、スタッフ間の連絡ノートを活用して、情報を共有している。	○	情報の共有の深めていく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設備や環境を整え、状況に応じて支援できるように取り組んでいる。また、外泊等安全に行えるよう相談に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	踊りやの近隣小学校の生徒による演奏ボランティアなどの依頼、受け入れを行っている。	○	地域コミュニティや文化会館、図書館などの活用を検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、他のサービスの意向や必要性のある方がいないため、行っていない。	○	必要性に応じて随時、対応できるようつとめていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから紹介を受けて入居された方はいるが、入居後、社会復帰などの意向や必要性のある方がいないため、行っていない。	○	地域包括支援センターとの関わりが、運営推進会議でしかないため、今後発展させていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医療機関をご利用の方については、職員が通院付き添いを行い、御家族、ご本人希望の医療機関をご利用の方については、情報提供を行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックと連携をとり、必要に応じて往診をお願いしている。	○	医師との連携を深めていく。
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回出勤及びオンコール契約をしている看護師と連携しながら行っている。	○	看護師からのアドバイス等をサービスに反映させる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族立会いのもと病院関係者との情報交換、またお見舞いなどを通して、情報交換を行っている。また、協力医療機関への連絡は、随時行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、御家族、医療機関との情報を共有し、統一したサービスの提供を行っている。また以後の方向性について、相談している。	○	緊急時における迅速な対応に努める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	指針をもとに、主治医と相談、状態把握に努め、個別にミーティングを行い検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人・御家族と相談しながら、移り住む所への連絡などを行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに注意し、言葉かけや対応にも個々に配慮している。	○	今後も継続して意識を高めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせ、希望を表せるように、選択することを多く取り入れている。(飲み物の選択・お菓子の選択・外出の希望など)	○	希望や意向が把握できるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表せる方は、その方のペースに合わせているが、全員の希望を聞き出せていない。	○	希望や意向が把握できるように支援していく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服はご自分で、選んでいただいている。理美容は、訪問を含め、本人とご家族の希望を取り入れている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、切る・炒める・煮る・盛り付けなどを手伝っていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好みを楽しめるように支援している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて、排泄のパターンをチェックし、声をかけトイレへの案内を行っている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔を保持しながら、希望に合わせた入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体力にあわせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや散歩、趣味に合わせたレクリエーションの工夫を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金や本人自己管理金を利用し、個人の買物時に金銭を使用していただくように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天時以外は希望に応じて、近隣の公園やホーム周辺への散歩を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や季節に応じた外出先を調べ、外出している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族などへの電話を援助している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる雰囲気作りや環境整備を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等行動制限についての取り扱い要領をもとに、徹底している。	○	引き続き、意識を高めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない状況を除き、基本的には、常時居室や玄関の鍵はかけていない。非常口については施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、常時職員が所在を把握し、夜間は1時間おきに巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決め、使用時は個々に合わせた支援を行い、危険を防ぐように取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に応じ、看護師や医療機関と連携しながら、防止に取り組んでいる。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルにそった対応。訓練等は定期的には行っていない。	○	普通救命講習への参加や研修の実施を検討していく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、防災訓練を実施している。	○	地域の人々の協力が得られるように、関係を築いていけるように取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や毎月の手紙、または電話などにより、説明を行っているが、具体的な対応策の話し合いは行っていない。	○	家族への説明の機会を設ける。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努め、救急マニュアルをもとに、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書きをファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。また、状況により、医師や看護師による注意点を各職員が把握できるよう務めている。	○	各職員が、御利用者の疾病や内服薬についての理解を深めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂取や食物繊維の提供及び、体操や散歩などによる適度な運動ができるように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。歯科往診医に相談を行い、義歯の管理方法を統一している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や必要に応じて水分量のチェックを行い、体調管理を行っている。また、嗜好にあわせて食事の提供を行い、摂取量の安定を図っている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、うがい手洗いを徹底し、特に職員が率先して行うようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は使用后、食器乾燥機にて消毒し、まな板は毎日漂白を行っている。毎日台所の清掃を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔にし、植木などにより親しみやすい工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にし、季節に応じた飾りつけなどを職員と一緒に作成している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いすの配置を工夫したり、座席の配慮を行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく以前の状況を再現できるよう、馴染みのあるものや、使い慣れたものなどを持ってきていただくように説明している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度・湿度に配慮しながら、状況に応じて調整を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や段差の無い床、車椅子使用時でも、すれ違える広さの廊下や利用できるトイレなど、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>生活パターンを把握し、案内版を設置したり、声かけを行ったり誘導することで、自立して生活できるように工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>屋上に洗濯干し場を設置し、日常的に屋上に行かれるようにしている。また、天気の良い日には屋上で食事をしたり、レクリエーションを行っている。</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

立地条件にめぐまれているので、散歩や買い物などの外出の機会をなるべく多く提供できるように支援しています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

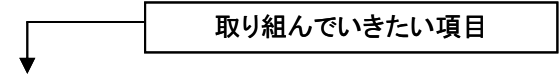
## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ゆう愛 2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市三春町1-9-34
記入者名 (管理者)	鈴木 敦
記入日	平成 20 年 11 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に応じて、できる限り、自立した生活ができるよう支援します。また、自己決定を大切にし、スタッフも含め、地域の中でともに生活していけるよう努めていきます。	○	日々の生活に理念が反映されるよう、スタッフの意識を高めていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、その人らしさやご自分のペース、好みなどを意思表示していただくように、衣服の選択・飲み物の選択・入浴するかしないかなど、ご本人の希望を優先するように取り組んでいる。	○	入居者の方々の自己決定を大切に、各個人に合った支援が行えるよう取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族へは、毎月お手紙をお出ししている。地域へは、行事への参加や散歩時のあいさつなどにより、交流を図り、理解していただくよう取り組んでいる。	○	地域行事への参加の機会、また散歩や買い物などの際の日常的な挨拶を大切に、地域交流を深めていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶などにより交流を図り、行事時には、改めて挨拶している。	○	今後も、気軽に立ち寄って頂けるような、明るく開放的な雰囲気づくっていきけるよう努めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り、夏まつりへの参加、また近隣の小学校や中学校のボランティアや体験学習等の依頼や受け入れを行っている。	○	今後も、ボランティアや行事等の依頼や、受け入れを積極的に行っていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者について、特に取り組みは行っていないが、窓口での相談に応じている。	○	運営推進会議を通じて、可能な限り地域で協力できるよう取り組んでいく。
---	--	---	---	------------------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後ミーティングを行い、各職員の意識を高められるよう、改善に取り組んでいる。	○	指摘事項については、早急に改善への取り組みを行う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や地域の方々からのご意見を可能な限り反映できるように、取り組んでいる。	○	今後も、サービスの向上につながるような、話し合いができるよう取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で行き来する機会を設けていない。	○	よりよいサービスが提供できるように、相談の機会が増えるよう取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、また計画作成担当者と必要な方の御家族とは、話し合いを行っている。	○	外部研修等、各職員に学ぶ機会を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの通知などをもとに、職員の意識を高め注意を払い、防止に努めている。	○	今後も常に意識して業務にあたるよう各職員にはたらきかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明するとともに、随時質問などに応じている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、不満や苦情をお聞きすることはあるが、外部者へ表せる機会には設けていない。	○	苦情等が上がった場合には、早急に問題解決にむけて取り組めるよう対応していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活状況を書面にてお知らせし、金銭についても個々に合わせて報告している。また、健康状態等の近況報告は、面会時や電話にて随時対応している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を設置し、外部への申し立てについては、連絡先を重要事項説明書に明記し、説明を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のフロアーミーティング、また日常的に話しやすい雰囲気を作り、いつでも意見を聞けるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度ミーティングを行い、調整に努めている。また緊急時は、管理者、フロアー責任者への連絡を徹底している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は、御利用者への影響に配慮し、最小限の異動としている。	○	職員間での関係を良好に保てるよう働きかけていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り参加し、またミーティング時に指導することや、日々の業務のなかで指導できるよう取り組んでいる。	○	外部研修は可能な限り参加し、また内部研修の場を設けるよう、取り組んでいく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、交流研修に参加したり、運営推進会議を通じて他のグループホームと情報交換するなど、サービス向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気軽に話せる雰囲気を作り、一人ひとりと話をする場を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の長所をうまく引き出せるよう働きかけている。また年1回の契約更新時に、人事考課を行っている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居事前面接を自宅にて行い、入居後のサービスに早急に対応できるよう取り組みを行っている。	○	各職員が柔軟な対応ができるよう務めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族、ご本人の都合などに配慮し、相談などに対して、いつでも柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、本人がかかえている課題を把握し、柔軟に対応できるよう対応している。	○	ホームでの支援のあり方をご理解していただけるよう務めていく。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族・ご本人の様子をふまえ、面会等の必要性など、随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせるための環境の構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、家事などを手伝っていただくことで、料理、手芸等を教えていただくような関係を築けるように努力している。	○	御利用者の方が、主導となるよう働きかけをおこなっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、行事に参加していただいたり、協力しながら、支援する関係を築けるように取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれのご家族の事情にあわせて支援を行っている。	○	各御家族の諸事情もあるが、行事等で、ご本人との接点の機会を増やしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談しながら、知人の方の面会や手紙などの受け取りを代行している。	○	馴染みのある場所について、散歩以外の個別外出ができるように取り組んでいく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席の配置に配慮したり、利用者同士がスムーズに会話できるような生活の自然な流れの中で、職員が介入するように努めている。	○	共同生活を営むうえで、個々の役割の確立に努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後についても随時、相談に応じるよう務めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、職員間にて連携を図り、御利用者の意向をとり入れたサービスが提供できるよう取り組んでいる。	○	本人の意向にそった、外出などの個別ケアの実施。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族のお話を聞き、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌に、1日の流れを個別に表記し、ミーティングなどにより、現状把握を職員全員が共有できるように努めている。	○	継続的なケアカンファレンスの実施。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで、できる限りご本人・御家族の意向にそったサービスが提供できるよう、介護計画を作成している。	○	個人ケアの確立。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じて臨機応変に対応できるよう、随時見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、気づきなどは、スタッフ間の連絡ノートを活用して、情報を共有している。	○	情報の共有の深めていく。



3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>設備や環境を整え、状況に応じて支援できるように取り組んでいる。また、外泊等安全に行えるよう相談に努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>踊りやの近隣小学校の生徒による演奏ボランティアなどの依頼、受け入れを行っている。</p>	○	<p>地域コミュニティや文化会館、図書館などの活用を検討していく。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在は、他のサービスの意向や必要性のある方がいないため、行っていない。</p>	○	<p>必要性に応じて随時、対応できるようつとめていく。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターから紹介を受けて入居された方はいるが、入居後、社会復帰などの意向や必要性のある方がいないため、行っていない。</p>	○	<p>地域包括支援センターとの関わりが、運営推進会議でしかないため、今後発展させていきたい。</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム協力医療機関をご利用の方については、職員が通院付き添いを行い、御家族、ご本人希望の医療機関をご利用の方については、情報提供を行っている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>メンタルクリニックと連携をとり、必要に応じて往診をお願いしている。</p>	○	<p>医師との連携を深めていく。</p>
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回出勤及びオンコール契約をしている看護師と連携しながら行っている。	○	看護師からのアドバイス等をサービスに反映させる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族立会いのもと病院関係者との情報交換、またお見舞いなどを通して、情報交換を行っている。また、協力医療機関への連絡は、随時行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、御家族、医療機関との情報を共有し、統一したサービスの提供を行っている。また以後の方向性について、相談している。	○	緊急時における迅速な対応に努める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	指針をもとに、主治医と相談、状態把握に努め、個別にミーティングを行い検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人・御家族と相談しながら、移り住む所への連絡などを行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに注意し、言葉かけや対応にも個々に配慮している。	○	今後も継続して意識を高めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせ、希望を表せるように、選択することを多く取り入れている。(飲み物の選択・お菓子の選択・外出の希望など)	○	希望や意向が把握できるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表せる方は、その方のペースに合わせているが、全員の希望を聞き出せていない。	○	希望や意向が把握できるように支援していく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服はご自分で、選んでいただいている。理美容は、訪問を含め、本人とご家族の希望を取り入れている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、切る・炒める・煮る・盛り付けなどを手伝っていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好みを楽しめるように支援している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて、排泄のパターンをチェックし、声をかけトイレへの案内を行っている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔を保持しながら、希望に合わせた入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体力にあわせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや散歩、趣味に合わせたレクリエーションの工夫を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金や本人自己管理金を利用し、個人の買物時に金銭を使用していただくように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天時以外は希望に応じて、近隣の公園やホーム周辺への散歩を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や季節に応じた外出先を調べ、外出している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族などへの電話を援助している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる雰囲気作りや環境整備を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等行動制限についての取り扱い要領をもとに、徹底している。	○	引き続き、意識を高めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない状況を除き、基本的には、常時居室や玄関の鍵はかけていない。2階玄関には、開閉時にアラームが鳴るセンサーを使用している。また、非常口については施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、常時職員が所在を把握し、夜間は1時間おきに巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決め、使用時は個々に合わせた支援を行い、危険を防ぐように取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に応じ、看護師や医療機関と連携しながら、防止に取り組んでいる。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルにそった対応。訓練等は定期的には行っていない。	○	普通救命講習への参加や研修の実施を検討していく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、防災訓練を実施している。	○	地域の人々の協力が得られるように、関係を築いていけるように取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や毎月の手紙、または電話などにより、説明を行っているが、具体的な対応策の話し合いは行っていない。	○	家族への説明の機会を設ける。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努め、救急マニュアルをもとに、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書きをファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。また、状況により、医師や看護師による注意点を各職員が把握できるよう務めている。	○	各職員が、御利用者の疾病や内服薬についての理解を深めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂取や食物繊維の提供及び、体操や散歩などによる適度な運動ができるように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。歯科往診医に相談を行い、義歯の管理方法を統一している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や必要に応じて水分量のチェックを行い、体調管理を行っている。また、嗜好にあわせて食事の提供を行い、摂取量の安定を図っている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、うがい手洗いを徹底し、特に職員が率先して行うようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は使用后、食器乾燥機にて消毒し、まな板は毎日漂白を行っている。毎日台所の清掃を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔にし、植木などにより親しみやすい工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にし、季節に応じた飾りつけなどを職員と一緒に作成している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いすの配置を工夫したり、座席の配慮を行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく以前の状況を再現できるよう、馴染みのあるものや、使い慣れたものなどを持ってきていただくように説明している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度・湿度に配慮しながら、状況に応じて調整を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や段差の無い床、車椅子使用時でも、すれ違える広さの廊下や利用できるトイレなど、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>生活パターンを把握し、案内版を設置したり、声かけを行ったり誘導することで、自立して生活できるように工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>屋上に洗濯干し場を設置し、日常的に屋上に行かれるようにしている。また、天気の良い日には屋上で食事をしたり、レクリエーションを行っている。</p>		



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

立地条件にめぐまれているので、散歩や買い物などの外出の機会をなるべく多く提供できるように支援しています。